



9月議会閉会 異例の11月決算不認定
新藤信夫



保健福祉委員会で質問

33件の議案について審査し27件を可決、人事議案2件については同意、決算議案の内一般会計及び特別会計決算については不認定、企業会計の3件については認定となりました。その他、請願21件についても審査が行われました。

また、24日には埼玉県では11月としては54年ぶりの初雪、しかも積雪は観測史上初めてのことで紅葉した木々が白く染まる珍しい景色も見られ、交通機関も大きく乱れました。市では協定を結んでいる建設業者等に指示し凍結防止剤の散布を行いました。翌朝は気温が0度近くまで下がり路面の凍

結によってスリップ事故も発生しました。この現象は地球温暖化による北極海の氷床の減少に起因する局所的な寒冷現象とされ、温暖化によって発生する極端な風雨や気温変動の一例のようです。これらの地球規模の変動は大きな災害を伴うものであり行政の役割として防災対策の充実と共に防災意識の啓発が益々重要となつて来ます。話が変わりますが、さいたま市議会においても異例の事態が発生しました。9月7日から始まった9月定例会議は最終日を10月21日としていましたが、大宮西高の中高一貫校移行のPFI方式による工事・依託にかかる審査や、トリエンナーレ担当者の過大な時間外労働問題等の審査に時間を要したことによって、さいたま市が誕生して以来初めての14日間(11月4日まで)の会期延長となりました。また、27年度決算についてはトリエンナーレ・プレイベントの支出や時間外労働について過大過ぎるとして不認定としました。

今年の11月は近年にない異常な月でした。22日明け方(5時59分)には福島県沖を震源とするマグニチュード7.4の地震が発生、福島県、茨城県、栃木県で震度5弱を観測しました。東北地方から関東地方の太平洋沿岸では津波を観測、仙台港では東日本大震災以降最大の1.4mを観測しました。活動期に入ったとされる日本付近の地震変動の一部で、今年に入って発生した熊本地震(4月14日)、鳥取地震(10月21日)に続くもので、近い将来必ず起こるとされている東南海トラフの大規模地震を予感させることとなりました。

話が変わりますが、さいたま市議会においても異例の事態が発生しました。9月7日から始まった9月定例会議は最終日を10月21日としていましたが、大宮西高の中高一貫校移行のPFI方式による工事・依託にかかる審査や、トリエンナーレ担当者の過大な時間外労働問題等の審査に時間を要したことによって、さいたま市が誕生して以来初めての14日間(11月4日まで)の会期延長となりました。また、27年度決算についてはトリエンナーレ・プレイベントの支出や時間外労働について過大過ぎるとして不認定としました。

大宮西高が衣替え 平成31年度に中等教育学校として開校

市立高校4校の中でグローバル化に重点を置いた教育方針を掲げて来たさいたま市立西高等学校が校舎を建て換えるなどリニューアルして平成31年に中等教育学校として開校することとなっています。さいたま市には、平成19年に開校した併設型中高一貫校である市立浦和中・高等学校がありますが、平成31年度にこの中等教育学校が開校することによって2つのタイプの中高一貫校を併せ持つ全国初の政令指定都市となります。

大宮西高は来年度(平成29年度)を最後に平成30年度には生徒募集を停止し、平成31年度には中等教育学校1年生として中学1年生(現在小学校4年生)を迎え開校することになります。右の図のように平成31年は大宮西高校の3年生と中等教育学校の1年生が同じ学舎で1年間過ごすことになっており、大宮西高の伝統を1年生ができるだけ引き継いでもらうための措置です。さいたま市から世界に貢献するグローバル人材の排出を目指して、また、世界共通の大学入試資格である国際バカロレアの取得を目標とした6年間一貫したグローバル教育を行う予定にしています。8年後の平成36年度には外国語に堪能で行動力のある優秀な生徒が巣立つことに期待します。

9月議会ではPFI事業(民間資金等の活用による公共施設等の整備事業)で行う校舎の建て替えや施設等の維持管理(授業等は市が雇用する教師が行う。)を行う事業者の決議を行い、市は浦和区に本社を置く(株)ユーティケーを中心とした全6社で構成するSPC(特別目的会社)である「株式会社さいたまホームユナイテッド」と21.5年に及ぶ長期の契約を締結しました。契約金額は約84億5210万円、契約期間は平成28年10月21日から平成49年3月31日



外観のイメージ図(さいたま市教育委員会資料)

中等教育学校への改編スケジュール

大宮西高	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35	H36	中等教育学校
高3生	○	○	○	○						●
高2生	○	○	○					●	●	●
高1生	○	○					●	●	●	●
					●	●	●	●	●	●
										●
										●
										●
										●
										●
入学対象学年		現中3	現中2	現中1						
備考		現中3生入学年度	高校募集停止	中等教育学校開校						中等教育学校完成年度

※ H29年度入学生の募集人数は240名を予定していますが、確定ではありません。
 ※ H30年度より高校1年生の募集を停止します。
 (さいたま市教育委員会資料)

落札事業者グループ(SPC-特別目的会社)の構成

グループ名	ユーティケーグループ
代表企業	株式会社 ユーティケー
構成員	株式会社 佐伯工務店
	初雁興業 株式会社 さいたま支店
	毎日興業 株式会社
	株式会社 ユーティケーサービス
	シダックス大新業ヒューマンサービス 株式会社
協力会社	株式会社 教育施設研究所
	株式会社 宮下設計事務所
	日本調理機 株式会社 埼玉営業所

「新大宮上尾道路期成同盟会」結成

新大宮上尾道路は、東京外郭環状道路(外環)と首都圏中央連絡自動車道(圏央道)をネットワークで結ぶ道路で、さいたま市中央区円弥から鴻巣市箕田までの延長25.1kmの自動車専用道路です。

この内、さいたま市中央区円弥から上尾市堤崎までの8km区間について、平成28年に事業決定されました。この自動車道によって都心方面やさいたま新都心へのアクセスが向上し、円滑な物流の確保や防災拠点への物資輸送等の速達性の向上、国道17号などの渋滞緩和や事故の減少等に資するものと期待されています。

この度、当事業の早期完成を願う沿線自治体(さいたま市・上尾市・桶川市・北本市)が一丸となって、事業の推進を強力に支援するため、11月22日にさいたま市長を会長として「新大宮上尾道路建設促進期成同盟会」を結成し、決起宣言として右記の事項を掲げ、関係機関に要望して行くことになりました。



平成28年度予定 与野JCTから上尾IC(仮称)間の延長8kmの道路設計を実施する。

新大宮上尾道路期成同盟会資料より

【決起宣言】

- 一、平成28年度に国の直轄事業として新規事業化された首都高速道路と野ジャンクションから(仮称)上尾南インターチェンジまでの区間については、早期完成に向け、事業を強力に推進すること。
- 一、事業実施に際しては、コスト削減に努めるとともに、本路線の重要性や緊急性、公共負担の軽減等を鑑み、有料道路事業を活用した事業区分を早期に具体化し、一日も早い完成を目指すこと。
- 一、現在事業化されていない(仮称)上尾南インターチェンジから圏央道桶川北本インターチェンジまでの区間についても、本路線の機能を最大限発揮させるため、早期に事業化すること。
- 一、首都圏の防災力の強化や国民の安心・安全に必要な道路整備予算を確実に増額すること。

大宮グランドセントラルステーション化構想(GCS構想)に向けて推進会議が本格的検討を開始

大宮駅は明治18年に高崎線と東北線の分岐駅として開業し昨年(平成27年)で開業130年を迎えました。駅が開業以降大宮には鉄道関係の施設をはじめ片倉製糸紡績(株)等の民間企業も多数進出し、鉄道を中心として働き、暮らす人々によって大宮の文化圏が作られてきました。今や大宮駅は新幹線をはじめとして12路線が乗り入れる東日本を代表するターミナル駅となっています。平成19年には鉄道博物館も開館し「鉄道のまち」としてさらに発展し続けています。

さいたま市では平成22年に「大宮駅周辺地域戦略ビジョン」を策定し進めてきましたが、大門2丁目中地区等の再開発事業、大宮区役所新庁舎整備や氷川線西通線等が進捗したこと、北陸・北海道新幹線の開業や、上野東京ラインの開通などによって大宮が交通結節点としてのプレゼンスが益々高まったこと。一方で人口減少下において「滞留促進型国土」の形成に向けた取り組みが必要であると共に首都圏直下型地震をはじめ災害への一層の対応力が求められていることなどを背景として、東日本の玄関口である大宮、さらに

はさいたま市のプレゼンスを飛躍的に向上させ、日本の誇るべき都市としての地位を確立させて行くことを目的として、このGCS構想が作成されることとなりました。

推進会議は学識経験者(大学教授)、まちづくり団体、鉄道事業者、行政機関の幹部14人で組織され、その他に国土交通省等からオブザーバーとして6人が参加する構成となっています。第一回は8月25日に大宮区役所で開催され委員の紹介と議題の確認等が行われ、第2回(10月31日)からは整備方針や今後のスケジュール等について検討がなされます。

今回(第2回)のGCS構想推進会議では、当構想案の検討を進めるに当たっていくつかの提案がなされ、①大宮駅東口を中心とした改造案(イメージ図等)の提案、②東武鉄道、JR、ニューシャトルの乗換利便性の向上策、③北の玄関口である大宮駅と、南の玄関口とされる品川駅の位置付けの明確化等が次回会議までに提出されることとなりました。

今回の会議では残念な点もいくつかありました。一つは大宮駅西口についてほとんど話題に上がらなかったこと。2つ目は鉄道事業者からの意見がなかったこと。3つ目はある委員から「我々は商売人であり儲けに繋がらないことには乗り乗れない。」といった意見が出たこと。今後の議論では大宮駅利用者の利便性向上のために私益を捨てて議論を尽くして欲しいと思います。

大宮駅グランドセントラルステーション化構想の整備方針(素案)

▶ 東日本の玄関口「大宮」として取り組むべき方針

1. ビジネス 地の利を活かし、東日本の拠点としてのビジネス機能を磨き上げさせます
2. 公共交通 他モード連携 東日本からの集結・交差機能を高める、更なる交通結節機能の充実を図ります
3. 東日本連携 新たな価値を創造する対流拠点機能を強化し、東日本の主要都市間と共存・共生を目指します

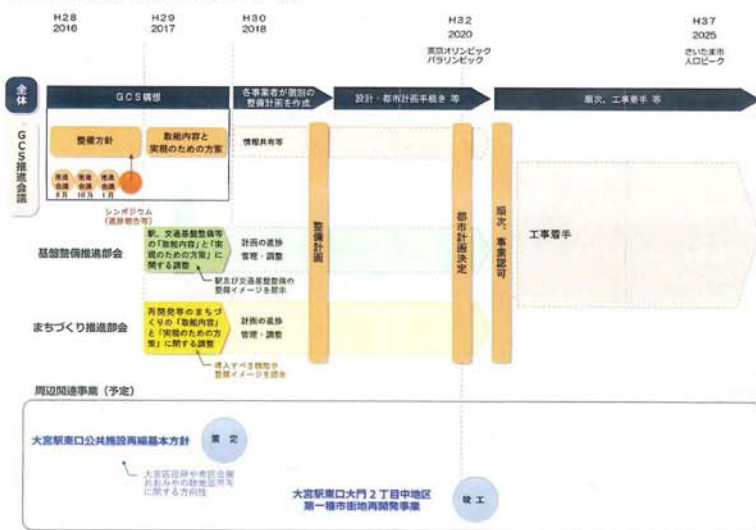
▶ さいたま市の拠点として取り組むべき方針

4. 商業 地元商店や路地空間の魅力、拠点的な商業集積を活かし、商都大宮を再生します
5. 歩行者ネットワーク 駅からまちへ人を惹きつけることと、まちからまちへの回遊機能を強化します
6. 地域 コミュニティ 都心の便利さと緑の近さがコンパクトにミックスされた上質な住環境を地域で育成します

▶ 共通事項として取り組むべき方針

7. 景観 大いなる宮原としての風格ある駅前顔を形成します
8. 防災 首都圏直下型や都市型災害に対する強靱性を備えたまちづくりの推進を図ります

◆大宮GCS構想に係る事業スケジュール(案)



第2回 GCS推進会議資料より